



# 第59回全道造形教育研究大会IN上川・旭川特集

## <目次>

・大会風景〈表紙〉……………	1	・上川・旭川大会によせて……………	4~6
・大会実行委員長挨拶……………	2	・22年度大会のお知らせ……………	7
・大会を振り返って……………	3	・地区サークル情報……………	8



**北海道  
造形教育  
連盟報**

No.129 2009.12.1発行  
 発行 北海道造形教育連盟  
 会長 菅原清貴 (札幌市立幌西小学校)  
 事務局 札幌市立盤溪小学校 稲貫 順  
 〒064-0945  
 札幌市中央区盤溪226  
 TEL(011)642-3223・FAX(011)642-3287



## 上川・旭川大会を終えて

第59回全道造形教育研究大会 上川・旭川大会  
実行委員長 **加藤 隆**  
(旭川市立台場小学校)

大雪山系の旭岳や十勝岳も雪に覆われ、冬の到来が間近と感ずる頃となりました。

さて、去る7月28日に行われた第59回全道造形教育研究大会上川・旭川大会は、400名という多くの皆様の参会を得て終了することができました。ここに謝意をあらわす機会をいただきましたので、大会終了の報告とお礼を申し上げます。

### <明日への造形教育をみざして>

6年ぶりに旭川で行われた全道造形教育研究大会ですが、今回は上川と旭川の仲間と一緒に開催する初めての研究大会となりました。

本研究大会は、子どもたちの身体で感じる対象との出会いや、他者との関わりを大切にしながら感性をはぐくみ、磨く営みへの支援を通して子どもたちが新たな意味や価値を見だし、「創造する喜び」の獲得をめざす取組でした。またこの実践に向けて、大学や美術館など地域の教育的機能をもつ関係機関との連携が実現したことは、これからの造形教育のあり方の一つとして示すことができたのではないかと考えています。

大会当日の授業では、緊張しながらも、自分の感じたことを言葉に出して発表したり、できあがっていく過程をグループで確かめあいながら完成に近づけていく子どもたち、鑑賞の授業では、作者のサプライズ登壇に目を輝かせ、作者と積極的に交流する姿など、様々な場面で体験的なプロセスを大事にした授業づくりに取り組んできた実践の一端をみていただくことができました。

また研究協議についても、どの会場も多くの参会者の皆様によって私たち上川・旭川の実践を全道各地の実践と結びつけていただく熱心な協議の場となったことに感謝申し上げます。



上川・旭川大会の成果と課題については、これから実行委員会、各領域部会で検証し、今後の取組に生かしていきたいと考えています。

### <大きなつながり・ひろがりへ感謝>

全道各地より参会をいただいた皆様、関係機関各位、授業の公開や提言、助言を快く引き受けていただいた上川管内、旭川市の幼稚園、各小中学校、高校、大学の教職員の皆様、児童生徒、保護者の皆様に心より感謝を申し上げます。

また本研究大会は、北海道教育委員会はじめ旭川市教育委員会、鷹栖町教育委員会、東川町教育委員会、北海道私立幼稚園協会旭川支部、上川管内校長会、旭川市小学校・中学校各校長会、上川管内・旭川市各教育研究会、北海道立旭川美術館、旭川市彫刻美術館、北海道教育大学旭川校、旭川大学校、旭川竜谷高等学校各位の有形無形のご支援をいただいたことを感謝の意を込めて報告いたします。



とりわけ会場校を引き受けていただいた旭川市立永山中学校教職員の皆様には、長期にわたる準備の中、寛大かつ大きなご支援をいただきました。

会場校は、上川開拓の中心地ともなった歴史ある永山の地に建つ学校です。従来の学校のイメージから抜け出た外観と機能的な校舎、随所に生徒の学びの跡がみえるすばらしい環境の中で本研究大会を開催できました。参会者からもすばらしい大会会場だったとの声を多く聞くことができたことはうれしい限りです。

研究大会は人と人を近づけ、大きなエネルギーを生み出します。本研究大会の研究テーマにも通じる上川と旭川の仲間がつながり、そして造形教育という共通の活動を通して、全道の皆様とつながりの輪をひろげることができた大会だったと実感しています。



# 「喜び」を「いま・ここで」「つなげる」造形教育を目指して ～第59回全道造形教育研究大会を終えて

第59回全道造形教育研究大会 上川・旭川大会  
研究推進部長 成田 慎司  
(旭川市立北門中学校)

## 1 はじめに

本大会における研究は、前回の旭川大会における研究主題「生の造形教育」を振り返り、子どもたちの生きる力を、より育むための新たな課題を探ったことが、ひとつの出発点でした。部員全員にアンケートをとり、子どもたちの現状、そして「どのように育てあげたいか」というような部員たちの思いを反映させながら、前回大会の研究内容で継承すべきこと、改善すべきこと、新たに意識すべきことを考えた末、本大会テーマ『「身体で感じ・心はずませ・創造する」喜びを』、研究主題『「いま・ここで」「つなげる」造形教育を求めて』をまとめました。

本研究自体は4年次計画であり、本大会の公開授業は3年次の「積極的な実践交流」にあたるものですが、現段階での上川・旭川の研究を発信することで、僭越ながら北海道の図工・美術に携わるさまざまな方々の一助となること、また私たちにとっても貴重な勉強の場となることを期待して本大会を迎えました。

## 2 公開授業について

各領域では、授業者を中心とし、大会テーマ・研究主題を基にして2年前から授業実践、評価・改善を繰り返し、領域ごとの視点と具体的な学習内容を明確にしていきました。その過程を通し、研究主題の理解、造形活動のあり方や支援方法などを、各部員が共有し共同研究を進めることができました。

当日は、各公開授業とも、大会テーマに設定した『「身体で感じ・心はずませ・創造する」喜び』を子どもたちに実感させるものになったと思います。また、授業を通して明らかになった課題もありますので、今後の改善に向けてさらなる授業作りを進めていきたいと考えています。

## 3 提言について

本大会では、提言のほとんどを、各公開授業をやり上げてきた領域別部会の部長および部員が担当し、本大会に向けての研究概要を総括する内容で行いました。公開授業は日々行っている研究の一端として押さえており、そのため研究の全体像をお伝えすることがとても重要と考えたからです。結果として、よりわかりやすく上川・旭川の研究をお伝えすることができたのではないかと思います。

また、他地区や美術館からの発表もいただき、とても充実した内容になり感謝する次第です。

## 4 分科会について

領域毎に7つの分科会を設定させていただきました。討議の柱は「感性豊かに出会い、感じ、考え、思いや美を追い求め、自己と他者とのつながりの中で新しい意味（価値）を見出し、造形活動の喜びを味わう子ども」を目指す上で、次の視点で、どのように指導し、有効であったか」を基本とし、各領域で内容と視点を明確にし、討議の流れも工夫する形で設定しました。

それぞれ、多くの方にご参会いただき、とても活発な研究討議を進めることができました。公開授業に関する質問に始まり、貴重な鋭い指摘、実践なさっている学習活動を紹介してくださるなど、実に意義深い時間となりました。

## 5 「つなげる・広がる連携講座」「造形屋台」

実行委員会中心に、この2つの試みを行いました。研究主題から考えると、「いま・ここで」生きる子どもたちにとって、地域や文化との「つながり」は不可欠です。「つなげる・広がる連携講座」は地域の美術館とどのようにつながり、どのように生かしていくかを考える提言としてとらえていただければ幸いです。

「造形屋台」については、どんな題材をどのように教えていけばいいのか分からないという先生方のヒントになれば、と考えて設けさせていただきました。

どちらも、多くの方のご参加により、盛況のうちに終えることができました。

## 6 大会を終えて

昨年度の前回大会で、私たちはいしかり・北広島大会の先生方の造形教育に対する熱い思いを、未熟ながら感じ取らせていただきました。次の函館大会に向けて、それをつなげることができたのかを考えると、きっとまだまだ課題は残されているのだと思います。ですから、「いま・ここで」私たちの研究を途絶えさせず、まず私たち自身が「つなげる」努力を真摯に継続したい。大会を終えて、部員一同のように強く思っております。

本大会では、私たちの予想を超える多くの参会者をお迎えすることができたことに、本当に深く感謝申し上げます。おかげさまで無事に大会を終えることができました。まことにありがとうございました。

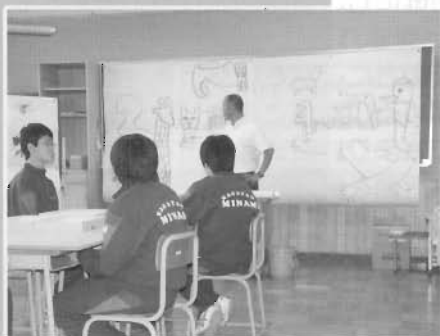
# 第59回北海道造形教育連盟全道大会の様子

2009. 7. 28 上川・旭川大会



受付の様子

大会実行委員長加藤先生の挨拶



「なるほど！」  
がっぱの題材屋台も大盛況でした。

# From上川・旭川大会 参加者からの声



## 「イメージを届けるデザイン」の授業を見て

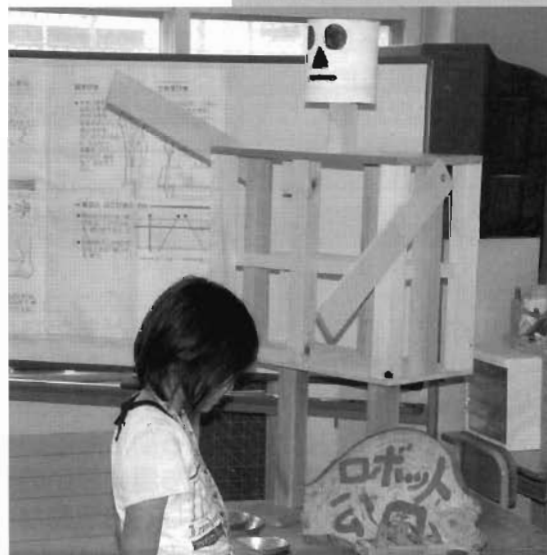
函館市立銭亀沢中学校 木村 伸仁

机やイスが撤去された教室に、生徒たちが安座している。何が始まるのだろうと固唾をのんで見守っていると、黒板に貼り出されたのは「こんがりベーコン」というスナック菓子の袋を1m以上に拡大したものでした。子どもたちだけでなく、我々も驚かされた導入でした。中島先生のテンポの良い質問によって、子どもたちはそのパッケージに使われている図や文字の「色」と「形」に着目し、作者の意図を読みとっていきます。次に「かっぱえびせん」と「カール」のパッケージが登場！子どもたちに歓声があがりました。「さあ、どっちのパッケージが優れたデザインだと思う？」の問いに、子どもたちの心は大いに揺れ動きます。優劣を競わせるのがねらいではなく、その問いで、さらに子どもたちに深く見させ、とらえさせるためです。第一印象で決めた後、様々な角度から意見交換。そしてその後の子どもたちのファイナルアンサーは…、なんと16対16の同数！デザインの奥深さと同時に、生活とデザインのつながりも実感できる、とても楽しい授業でした。中島先生と東光中学校2年の皆さんに、心から感謝したいです！

## 絵の具遊び～絵の具の感触と色混ぜを楽しもうを見て

東聖こばと幼稚園 小野寺 理恵

いつもと異なる環境での学習で、子どもたちには不安や緊張があったと思います。しかし、先生の話をよく聞いて活動に取り組む姿にとっても感心しました。画用紙の上で絵の具を混ぜ、色が変わっていく様子を楽しむ子どもたちは生き生きしていました。子どもの好きなカキ氷を題材にしたことでより興味をもって活動に参加していました。公開授業以外にも日ごろの取組などについてお聞きすることもできたので今後の参考にさせていただきます。本当にありがとうございました。



## 「心広がる場面」（どんぐりと山猫）の授業を見て

由仁町立由仁小学校 大谷 佳子

市内にある美術館、街中いたるところにある彫刻作品と彫刻美術館、北海道教育大学との連携。そして、職員一人一人のアイデアを生かした行動展示で見事全国的に有名になった旭山動物園。旭川の子どもたちは創造的なエネルギーを生み出すことができる良い環境にあり、とてもうらやましく思います。小5の「どんぐりと山猫」の作品づくりを見せていただきました。板の上に思い思いにつくった色彩豊かで砂をジェットで盛り上げた土台の上に、前時に描いたアイデアスケッチを並び変えたり大小を変えたりして、自分の思いを強調するための画面構成を考え、下描きするという活動でした。物語絵というと画用紙にクレヨンか水彩絵の具という固定概念を崩され、様々な材料を提示することにより、子どもたちは次に何が待っているのかと楽しみだったと思います。授業課題「自分の思いを形に表そう」は十分達成されていたと思います。私自身も絵とはこう描くものだと思いつけた指導をしがちなことを反省し、子どもたちが、感性豊かな作品づくりをすることができるようにしたいと感じました。

## 「墨絵による動物などの描写」の授業を見て

室蘭市立天沢小学校 東 加奈絵

現在、特別支援学級の担任をしており、公開授業、提言ともに参加させていただきました。公開授業では、生徒が自信をもって、迷いなく筆を進めている姿が素晴らしいと感じました。提言では、年間を通した取組がDVDで紹介されました。絵を描くことに抵抗がある子や視覚認知に課題がある子、障がいに伴う困り感は、造形活動においても子どもの自信や意欲を損なう要因となります。けれども、環境を整え、障がいの特性に応じた支援によって、子どもは変容し成長していくことを、実感させられました。自閉傾向のある男の子が、「今日はイライラしたサイ（を描くんだ）」と、具体的なイメージをもって臨み、授業後にちらっと見せた満足気な表情を見て、私も「自己評価を高め、自尊感情を育てる」造形活動を実践していきたいと強く思いました。

## 光とかげ ～ファンタジーワールド～を見て

大阪教育大学附属天王寺小学校 齊藤 和美

「すてきな授業を見せていただいた！」それが一番の感想です。あるグループの、「ここにライトを置いたらどう？」「これを使ったらどう？」と話し合う姿。よりよいものにしようと、アイディアを出し合い、協力し合うことが6年生の子どもたちの姿です。図工で心を通わせつながる子どもたちが本当にすてきでした。また、スクリーンに映すためにその距離を試したり、明かりを回す工夫をしたりと、それぞれの子どもがそれぞれの方法で、光とかげの「美しさ」に向かって工夫していました。部屋の照明を消した時の、子どもたちの作品の美しさ。一人一人の美しさはもちろん、みんなの灯りが集まってはじめてできる美しい世界。まさしくファンタジーワールドでした。子どもたちにはもちろん、参観者にも心に残る美しい一場面でした。

その世界をつくりあげた子どもたちと宮崎先生、本当にありがとうございました。

## コンテパステルで手作り絵本を作ろうを見て

東聖こばと幼稚園 森川 ひとみ

山岸先生のことが大好きな子どもたちの様子やクラスの一体感を感じました。ピアノがない教室にもかかわらずみんなで歌をうたったり歌遊びをしたりなど子どもたちを飽きさせない展開はさすがだと思いました。導入では子どもたちを先生のすぐ目の前に集め、気持ちに共感しながら進められ、子どもたちも目を輝かせながら期待している様子が伝わってきました。子どもたちはコンテパステルの扱いに慣れていて、自分たち思い思いのピーマンやトマトを描くことに熱中していました。コンテパステルの性質を上手に利用しての活動から、最終的に手作り絵本にしていくこの取組にとっても興味がわきました。今後の参考にさせていただきます。



## みて・話して大好き！あさひかわの授業を見て

北斗市立浜分小学校 小原 真理子

児童が今回の題材となった絵に最後まで関心をもって見つめている様子が印象的な授業でした。教材との合わせ方の大切さをあらためて考えさせられました。作品づくりまでは順調な私のクラスの子どもたちも、いざ鑑賞となるとなかなか意見が出てこないことが多いです。泉先生の授業を見て、鑑賞題材には児童が興味を示しそうなものを選んで提示していくことが大切なのだとして強く思いました。子どもたちの自由な発想や、作品に細部までよく観察して作者の思いを追求する態度は素晴らしいかったです。そして子どもたちの意見をどんどん引き出していく泉先生のテクニックを私も参考にさせていただきます。ありがとうございました。

# 第60回 全道造形教育研究大会 [函館大会]

○大会テーマ **創造! ときめき! 実感!**

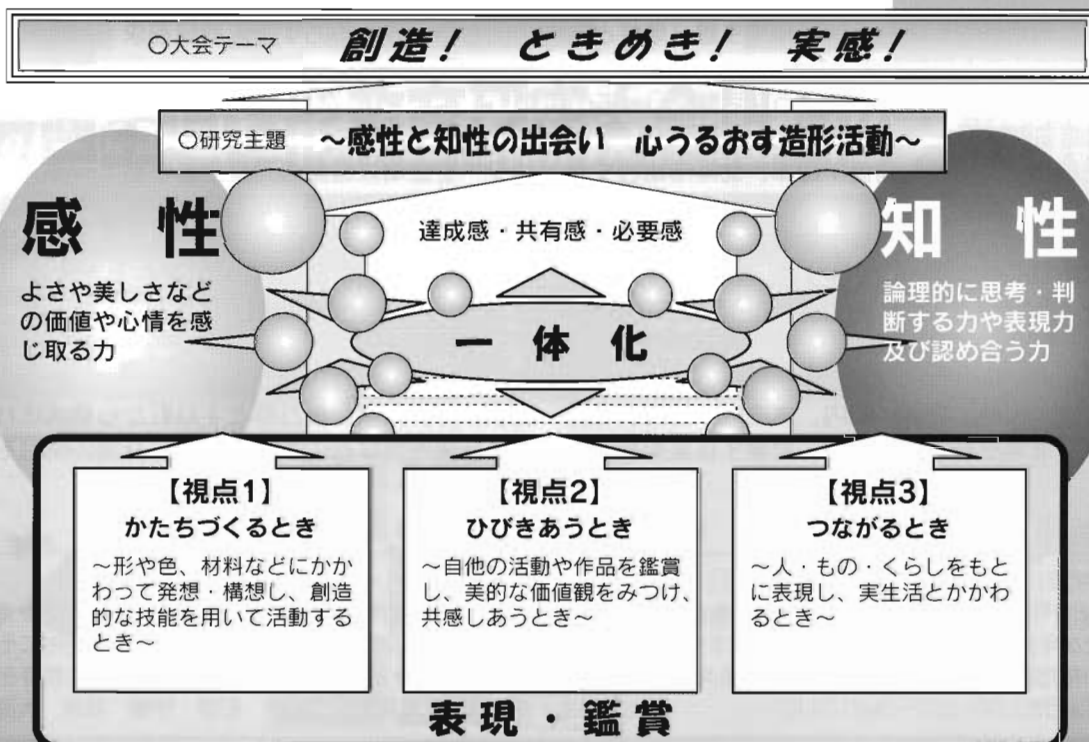
○研究主題 **～感性と知性の出会い 心うるおす造形活動～**

- 期 日 平成22年(2010年)7月28日(水)
- 会 場 函館市立昭和小学校
- 内 容
  - 公開授業数7、分科会数7(幼稚園1、小学校3、中学校3)
  - 函館・渡島・檜山児童生徒美術展(会場校)
  - 開会式・全体会・概要説明・講演(会場校体育館)
  - レセプション・閉会式(五島軒本店)



- 主 催 北海道造形教育連盟 函館市美術教育研究会
- 主 管 第60回全道造形教育研究大会函館大会実行委員会
- 後 援 北海道教育委員会 函館市教育委員会 渡島美術教育研究会  
檜山造形教育研究会 函館市幼稚園協会

研究構想図



# 帯広市教育研究会 図工・美術部会 活動紹介

帯広市立西陵中学校 根岸 邦昌

図工・美術部会は、《豊かな心をはぐくむ造形教育》をテーマに、78名の部員で活動しています。特に年3回開催される作品交流研修会では、作品を持ち寄り実践の様子を交流しています。6月には「卒・入学式の装飾」をテーマに、子ども達が協力して作り上げた数多くの装飾作品が紹介されました。



## 【活動内容】

- 小中作品交流研修会（年3回）
- 授業研究  
デザイン（ヒロシマ・アピールズ ポスターの制作）  
帯広市立川西中学校 入江映子教諭指導
- 第39回帯広市小中学校造形展  
11月19日～24日 帯広市民ギャラリー  
帯広市内小学校中学校、養・聾・盲学校が参加  
約1500作品を展示
- 美術館研修  
11月20日「はな展」  
「美術のみ・か・た～油絵と日本画展」  
北海道立帯広美術館
- 実技研修会（十勝造形サークルとの合同事業）  
12月11日 造形遊びを予定  
講師 札幌市立幌西小学校校長 菅原 清貴 先生

3年後の「全道造形教育研究大会」は十勝造形サークルと共催し、帯広市で開催することになりました。前回2002年帯広大会から積み上げてきた実践を全道に発表し交流できる機会です。重責を果たせるように準備を進めています。

# 渡島美術教育研究会の活動

北斗市立上磯中学校 後藤 征秀

渡島美術教育研究会では、平成22年度に北海道造形教育研究大会・函館大会が開催されるにあたり、函館市美術教育研究会と協力し、本大会を向かえていくこととなります。そこで、今年度の研究主題は、本研究大会の研究主題「創造！ときめき！実感！～感性と知性の出会い 心うるおす造形活動～」のもと、同様の主題「感性と知性の出会い 心うるおす造形教育を求めて」と設定することになりました。

今年度の会員数は26名で、次のような活動を行っています。

- ①渡島教育研究集会の開催：今回は八雲大会で11月20日に八雲中で開催されます。
- ②渡島児童生徒美術展の開催：毎年、北斗市総合文化センターを会場に渡島の児童生徒作品を600点ほど展示しています。今年度は2月6日から15日までの10日間行う予定です。
- ③実技講習会・学習会の開催：指導力の向上を目指し、毎年様々なテーマでの実技講習会を行っています。前年度はポスターの指導法に関わって、錯視図の制作などを行いました。
- ④美術鑑賞会の開催：今年度は5月16日に道立函館美術館に集まり、「牧島如鳩展」の鑑賞をしました。
- ⑤各町村研究サークルとの交流
- ⑥全道造形教育研究大会の参加協力

本研究会は、松前、福島、知内、木古内、北斗、七飯、鹿部、森、八雲、長万部と10町から構成されており、物理的に遠い会員が多いのですが、児童生徒美術展の開催や実技講習会などの事業を通じ、交流の機会をつくっています。

## あ と が き

連盟報129号では上川・旭川大会の様子を中心に編集してまいりました。旭川市の加藤先生・成田先生ありがとうございました。また次年度函館大会のPRを函館市の瀧本先生、地区サークル情報を帯広市の根岸先生と北斗市の後藤先生にそれぞれお力添えをいただきました。この場を借りてお礼申し上げます。チーム北海道を合言葉に全道の仲間たちで造形教育を盛り上げていきましょう!!

〈北海道造形教育連盟 広報部 松本 和彦・伊藤 聡美・大高 雅子〉